

○三河湾環境チャレンジ(蒲郡市立竹島小学校・三谷小学校)

三河湾の奥部に位置する蒲郡市では、毎年夏場になると大量のアオサが海岸に打ち寄せ、堆積し腐敗することで悪臭が発生し、市民生活や観光客に大きな被害があり、また特産のアサリなど漁業にも被害を与えています。このアオサの有効利用方法を検討し、循環型社会の構築を目指し、蒲郡市や関係する有識者、NPO、市民が協働して様々な取り組みがなされています。

この一環として臨海部の小学5年生を対象に、2回の海の環境学習を行ないました。1回目は三河湾の現状の学習から、児童自ら疑問や課題を検討して、2回目は疑問や課題を解決するために現地調査を行いました。

2回目の現地調査において、児童から出た三河湾内の水質やアオサの分布状況、投棄されたゴミなどの有無などについて、三河湾湾事務所が所有する港湾業務艇(しおさい)に乗船して海上から調査をしました。

通常的环境学習だけでなく、児童自らが現状を認識し、問題点や課題に対する解決方法を検討するところまでを自然と身につけることができ、しかも現地での行動から学ぶことができるため、児童達も楽しみながら理解力が深まっているように感じました。

私どもとしても、こういった地域の取り組みに対して今後とも支援をしていきます。



海水温を測定する児童

○みなと大発見講座



参加された親子連れ

7月4日・11日、豊橋市のこども未来館“ココニコ”にて当事務所と豊橋市の主催により、「三河湾」をより知っていただく「みなと大発見講座」を開催しました。

始めに、三河湾を紹介するビデオ鑑賞をしていただき、その次に三河湾クイズ王の称号をかけ、〇×クイズに挑戦してもらいました。難問に正解すると歓声が沸き、おおいに盛り上がりました。次に三河湾に実際にいる生き物を観察してもらいました。子供たちは、興味深く観察をしていました。生き物だけではなくゴミも沢山落ちていたという話をすると、一人ひとりが真剣な表情になっていました。「海をきれいにするぞ!」と思った瞬間でもありました。

最後に海岸に落ちていた木くずや貝殻でアートクラフトに挑戦してもらいました。木くずや貝殻をうまく貼りつけて花、チョウ、動物など世界に1つしかない作品を作り上げていました。



手作りの作品に大満足

○水辺クリーン・アップ大作戦



参加された大勢の皆さん

7月11日、半田市の衣浦港中央ふ頭西地区と亀崎海浜緑地において、半田市民憲章実践協議会の主催により今年で6回目となる「水辺クリーン・アップ大作戦」と題したゴミ拾いによる清掃活動が行われました。雨が続いた前日までとは違って変わって晴天のぞき、参加者は昨年より多く約1500名弱。当事務所からも2名が参加しました。

子供を連れた家族などの参加者も多数見られ、約1時間の清掃作業でしたが、港周辺の美化に励んでいました。また、清掃活動に合わせて、潜水士による海底ゴミの回収作業も実施しました。海底からはパソコンや扇風機などのゴミなどを回収しました。



回収された海のゴミ

★ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧くださいませ。http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp ★

国土交通省中部地方整備局
三河湾事務所発行(No.29)

2009年7月号 Mini-WAN

～三河湾事務所だより～

Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

☆CONTENTS☆

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 第21回蒲郡オレンジトライアスロン
- 平成21年度 三河湾関連事業計画等説明会開催
- 東幡豆小学校6年生 三河湾(東幡豆沖)水質調査
- ふるさとワクワク体験塾
- 三河大島いかだレース大会
- ホテルアソシア豊橋で港湾時局講演会開催
- 三河湾環境チャレンジ(蒲郡市立竹島小学校・三谷小学校)
- みなと大発見講座
- 水辺クリーン・アップ大作戦

☆巻頭コラム☆

ひらい ひろつく
三河湾事務所長 平井 洋次

新所長です
よろしくお願ひします



7月1日付けで塩田前所長の後任で参りました平井と申します。よろしくお願ひします。

これまでの4年間は千葉に、その前は新潟に住んでいました。生まれは関東でして、愛知県、広くは中部地方に住むのが初めてです。

そのため、新鮮なことばかりで、単純なことに日々驚き喜んでいます。番組表が違うとか、見たことがないCMがあるとか、スーパーに売っている商品だとか、まあ数え上げたらきりがありません。

そして、食べ物もおいしく、公共サービス施設等も整っており、だんだんと住みやすさも実感し始めています。

これから、周辺の花辺の施設、史跡等はもとより、山の方へも出かけて、さらに愛知県の良さを満喫したいと思っています。ただ、自動車の運転については、なんとなく怖さを感じながら走っています。まだ、慣れていないからかも知れませんが、交通事故ワースト1という愛知県ですので、皆さんも交通事故には十分注意してください。

次号からは当事務所の取り組みについても書きたいと思ひます。今後とも事務所一同よろしくお願ひします。



「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

お問い合わせ 0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局
三河湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

☆最近のトピックス☆

○第21回蒲郡オレンジトライアスロン

6月14日、蒲郡競艇場周辺において蒲郡オレンジトライアスロンが開催されました。遠泳（スイム）が375m、自転車（バイク）が10km、マラソン（ラン）2.5kmの市民が手軽に参加できる距離のものから、それぞれの種目を3人のリレーでつないでいくもの、オリンピックの距離（スイム：1.5km、バイク：40km、ラン：10km）まで多くの部門があり、総勢約500名の参加者がそれぞれのゴールを目指しました。

市民の部では13歳の女性や55歳の男性なども参加して競技に汗を流していました。



自転車で走行する先頭集団



○平成21年度 三河港関連事業計画等説明会開催



説明される塩田昌弘前事務所長

6月19日、ライフポートとよはしにおいて約160名の関係者が参加し、平成21年度 三河港関連事業計画等説明会が開催されました。はじめに当事務所、名古屋税関豊橋税関支署、愛知県三河港務所、愛知県企業庁三河港工事事務所の順に説明をされました。

当事務所における今年度の事業は、神野地区の航路泊地の水深1.2m化と同地区の防波堤整備を予定しております。

三河湾の海域環境改善の取り組みも行っており、実際の海域を使った試験も行っております。

最近では自治体やNPOなどの市民団体と協力し、みなとを活かした地域の活性化を支援する制度もあります。これらの制度については、利用しやすいものとなるような検討をしております。ご要望・ご質問などあれば、お気軽に当事務所までご連絡をいただきたいと思っております。

今後も皆様と協力し、より良いみなとづくりを実現していきたいと思っております。

○東幡豆小学校6年生 三河湾(東幡豆沖)水質調査

6月26日、東幡豆小学校の6年生43名が、当事務所の港湾業務艇「しおさい」に乗船して、三河湾（東幡豆沖）の水質調査を行いました。当日は晴れ。風も穏やかで絶好の水質調査日和でした。

今回生徒たちは、3班に分かれて前島及び沖島付近でCOD及び透明度を調査。初めて使うバックテストと透視度板に少し戸惑いつつ、揺れる船上でみんながんばって測定していました。（ちなみに、CODは4.5ppm前後。透明度は2.5m～3mという調査結果でした。）

また、同時に貝類などの生物観察、三河湾に関する環境学習も開催。生物観察は、あらかじめ東幡豆の海で採取したアサリやマテガイなどを魚市場の水槽に放流。そこで生徒たちは様々な種類の貝類を観察したり、実際に触って生き物の動き、習性を学びました。

環境学習では、三河湾の特徴、赤潮の発生の仕組み、海が汚れる原因など学習。「きれいな海を守るために自分たちができることは何か？」を一生懸命考えていました。

水質調査・生物観察・環境学習と盛りだくさんの内容。生徒たちにとって良い体験になったことと思います。

※COD（化学的酸素要求量）

水中の被酸化性物質を酸化するために必要とする酸素量を示したものの。代表的な水質の指標の一つであり、数値が高いほど有機物量を多く含んでいる状態である。



揺れる船上でのバックテスト



水槽をのぞき込む子ども達



○ふるさとワクワク体験塾

7月4日、東幡豆海岸で、幡豆町教育委員会生涯学習課主催のふるさとワクワク体験塾が開催されました。これは、子供達に幡豆の豊かな自然の中で、楽しみながら身近な地域にある種々なるものを体験・習得してもらう取り組みです。

今回のワクワク体験では東幡豆海岸で干潟観察をし、また干潮時には歩いて前島（うさぎ島）に渡り、前島の自然を観察しました。そのあと、当事務所の港湾業務艇「しおさい」に乗り、三河湾視察をしました。



「しおさい」からの景色に歓声！

東幡豆海岸での干潟観察ではマテガイの観察に人気が集まりました。マテガイが潜んでいそうな穴に塩を振りかけ、マテガイが飛び出してくると子どもたちから大きな歓声があがっていました。また「しおさい」での三河湾クルージングではいつもとは違う視点で海上から見る自分たちのまちを見てもらいました。

今回のワクワク体験では自分たちの住む幡豆の豊かな海の自然を楽しみながら感じてもらえたのではないかと思います。



干潟観察を楽しむ子ども達



○三河大島いかだレース大会

7月5日、蒲郡市沖で、三河大島いかだレースが行われました。このレースは蒲郡市の三河湾に浮かぶ無人島「三河大島」に残る『しまとり話』を題材にした湾上レースで、かつて島の利権をめぐり、市内各地区から一斉に舟を漕ぎだし競いあったという逸話です。

今大会は第10回記念として、『しまとり話』を再現し、行きは三谷、蒲郡、形原の3ヶ所から一斉にスタートし、三河大島を目指す10周年記念レース『鳥取物語』、帰りは大島から竹島ふ頭までの『大島レース』が行われました。さらに短距離のスピードを競う200mタイムトライアルレースも行われ、各チームが熱戦を繰り広げました。

今年も昨年に引き続き「牛虎会」の復路のメンバーとして帰りの大島レースに参加しました。一足先に船で三河大島に渡り、大島の自然を満喫したあとよいよ大島レースのスタート。だんだん遠のく三河大島を眺めながら必死にいかだを漕ぐこと約3.5km、ゴールの竹島ふ頭に近づくと多くの観客からの歓声に迎えられ、最後の力を振り絞って無事ゴールとなりました。

○ホテルアソシア豊橋で港湾時局講演会開催

7月6日、ホテルアソシア豊橋で「わが国の港湾行政について」という演題で港湾時局講演会が開催されました。

講演に先立ち（社）日本港湾協会理事長 鬼頭平三氏（元国土交通省港湾局長）から、「三河港にとって何が考え、それを行動に移し、地域の考えを国・県の行政にどう反映するか、しっかり地に足の付いた行動を取ってほしい」と述べられました。

講演会では国土交通省 須野原豊 港湾局長が講師として三河港の現状と課題、今後の方向性について話されました。その中で須野原局長は、「三河湾における物流・産業用地の確保、地域間ネットワークや高速輸送網アクセスの整備、市民が海や水辺に親しめる空間の整備が課題であり、今後はこれらの課題を早期に解決し整備を進めていくことが三河湾の活性化につながる。そのために協力していきたい」と述べられました。



講演会会場の様子